

Interview

松山女子高等学校 書道部

書道ガールズたちの 熱き想い

県立松山女子高等学校 書道部
 県立松山女子高等学校は大正15年創立、平成27年に創立90周年を迎える。書道部は「書の甲子園」として知られる国際高校生選抜書展にて2度全国優勝、全国高等学校総合文化祭（全国大会）に13年連続出場。その他「書道ガールズ」として全身で書表現する書道パフォーマンスを行い、市内外へ書道と東松山市の魅力を伝えている。



自慢のチームワークで作品を仕上げる部員の皆さん



全身を使う書道パフォーマンスの練習 1ミリ単位に気を配るかな文字作品

ピンクの袴が映える書道パフォーマンス



普段の練習とパフォーマンス練習について教えてください。

普段はかな文字を練習しています。かな文字は線の太さを1ミリより太くするかしないかで大きく印象が変わる繊細なものです。普段の生活が字に表れるので、服装やあいさつなど、当たり前前のことをきちんとできるように気を配っています。

部活動を通しての経験、そして今後の展望を教えてください。

私たちはロンドンオリンピック壮行会でのパフォーマンス披露や県平和資料館壁画の文字提供、市の観光大使としての活動など、普通高校生にはない経験に恵まれています。これは先生や過去の先輩たちの努力、そして学校や地域の方々など、周りの方々の支えがあった

からです。だからこそ、応援してくださる方に感謝の気持ちを伝えていきたいです。

また、市の観光大使を任せていただいているので、地域の方とお話をする機会が増えました。やはり「ありがとう」という言葉が私たちの一番の励みとなっています。

私たちは活動を通して一生懸命にやることの大切さや、夢は叶えるためのものだとすることを学びました。みんなと一緒に頑張って頑張ること、東松山市の魅力をたくさん伝えることができたいです。



大山さん愛用の登山グッズ



「登山は趣味だから、楽しんで登る」と大山さん

現在までの登山歴や登山への思いを教えてください。

50歳の時に「登山10年計画」を立て、仕事と家庭を両立させながら世界七大陸の最高峰に挑戦しました。また、平成18年から「ヒマラヤ登山10年計画」を実践し、6000m峰5座の登頂に6回、8000m峰4座の登頂に5回挑戦し全て成功しています。

山頂はゴールではなく、8000mの高所登山は登り4割、下り6割のペース配分が必要です。大切なことは自力で下山する勇気とそのタイミング。判断を間違えないためには、普段から冷静な自分を育

て、臆病なもう一人の自分を大事にすることです。過酷な自然を相手に妥協はできませんから。

登った人しか分からない、特別な達成感を得られることが登山の喜びです。

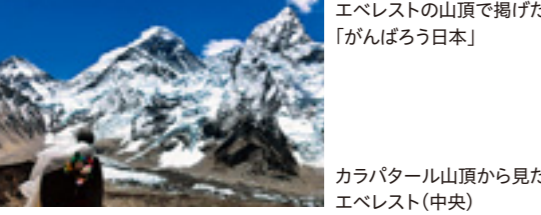
今後の展望、そして子どもたちへメッセージをお願いします。

東松山市山岳連盟の呼びかけに応じて市内在住・在勤の方7人とともに東松山市の60周年を記念して、平成26年4月にヒマラヤの5000m峰（カラパタール）の登頂に挑戦しました。「ウォーキングのまちからヒマラヤを登る」を合言葉

に、全員で登頂することができ、大きな自信となりました。この経験を通じて東松山のウォーキングをさらに活性化させていきたいです。

次代を担う子どもたちに伝えたいことは、可能性は自分の中にあるということ。勉強も運動もあきらめないで、自分の夢を叶えるために日々努力を重ねることが大事です。

世界七大陸の最高峰やヒマラヤの登山で学んだことは、何かを成し遂げるのに特別である必要はないということ。私にとつて最大の発見や驚きは、自分にはできないと思っていたことが「実はできた」ということです。



エベレストの山頂で掲げた「がんばろう日本」

カラパタール山頂から見たエベレスト(中央)

Climber Koichi Oyama
 I made a 10-year climbing plan when I was 50 years old and tried to conquer the Seven Summits while managing to achieve work/life balance. After 2006, I implemented my 10-year plan to climb the Himalayas and reached the summits of five 6000-meter mountains six times and four 8000-meter mountains five times. In April 2014, in commemoration of the 60th anniversary of the City, seven citizens and I planned and succeeded in reaching the summit of a 5000-meter mountain in the Himalayas, which helped build our confidence. I plan to further enliven the City's walking program. You don't have to be someone special to achieve something: The greatest discovery or surprise I found through climbing is that I actually achieved what I used to think impossible for me to achieve.

大山 光一さん
 昭和23(1948)年生まれ、東松山市在住。10代後半から国内の岩壁登攀及び積雪期登山を中心に活動。25年の空白を経て、50歳から登山を再開。34年を費やし世界七大陸の最高峰の登頂に成功し、定年後もヒマラヤの高所登山を継続中。平成24年5月には東日本大震災の復興を祈念して、「がんばろう日本」の旗をエベレストの山頂に掲げ、平成26年4月には市制施行60周年を記念したカラパタール登頂に成功。
 ※七大陸の最高峰…マッキンレー、キリマンジャロ、アコンカグア、コジウスコ、エルブルース、ピンソンマシフ、エベレスト



東松山が生んだ アルピニスト



Calligraphy Club of Matsuyama girls High school
 We practice writing kana characters. Since kana characters are so delicate that they readily reflect how we live our daily lives, we strive to maintain a healthy lifestyle by starting from small things, such as clothing and greetings. With much support from people around us, we have experienced what other high school students cannot, such as a presentation of performance calligraphy at the London Olympians sendoff party, the provision of characters to the mural of the Peace Museum of Saitama, and activities as the City's sightseeing ambassador. Through these activities, we have learned that dreams are meant to be fulfilled. We would be happy if we could convey the charm of Higashimatsuyama City and our hearty thanks through our hard work.